

2019年度一般入学試験(TEAP利用型) 記述式問題 解答

科目:2月3日 TEAP世界史

設問 6	多民族帝国の中東欧に民族自決の原則を導入し国民国家として再編することは、自決の主体としての民族の設定という問題を生んだ点。また、「主権を得た民族」は国民国家形成の主体となった一方で、同じ領域内の「被抑圧民族」には自決権が認められなかった点。(120字)
設問 7	「平和に関する布告」や「十四カ条の平和原則」には、無併合・無賠償の講和や、強国による諸民族支配を批判する理念が含まれていたが、英仏を中心とするヴェルサイユ体制は現実には帝国秩序を維持再編するもので、世界各地で民族運動が起きた。国際連盟に参加しなかったアメリカは、強い経済力を背景に大衆文化を開花させ、アジア・太平洋地域におけるワシントン体制を構築し、ロシア帝国を継いだソ連は、コミンテルンを通じて反帝国主義的な民族運動への支援を強めた。これらはヨーロッパの覇権が相対化され、米ソに移行しつつある動向を裏書きするものとも言えよう。一方、解体された旧オスマン帝国領のうち中東地域に関しては、英仏は大戦中のサイクス・ピコ協定に基づき、委任統治地域として勢力範囲に収め、植民地主義的な支配体制を築いた。(347字)